

◆ 3 ◆ その他地域でのセミナー・シンポジウム・会議等（オンライン開催があるもの）

☆食育に関する意識調査の結果を公表

農林水産省は、食育に関する国民の意識を把握し、今後の食育推進施策の参考とするために意識調査を実施し、令和8年3月に「食育に関する意識調査報告書」を公表しました。詳細はこちら▼

<https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/ishiki.html>

◆ 4 ◆ 2026年度の競争的研究資金について

【研究開発関連】

■ 省庁等

☆JST：「2026年度 先端国際共同研究推進事業（ASPIRE）単独公募募集」

☆JST：「2026年度 戦略的創造研究推進事業（ACT-X）」

■ 民間等

☆公益社団法人日本農芸化学会：「「FUTURE 農芸化学 100」若手研究者スタートアップ助成金交付候補者の募集」

☆公益財団法人ロッテ財団：「第14回（2027年度）研究助成「奨励研究助成【A】個人研究助成」」

【研究開発関連以外】

■ 省庁等

☆農林水産省（大臣官房 新事業・食品産業部）：「令和7年度地域の食品産業ビジネス創出プロジェクト支援事業（2次公募）」

2026年度の競争的研究資金については東海生研ホームページの「NEWS」欄に最新情報を掲載していますのでご覧ください。 <https://www.biotech-tokai.jp/>

◆ 5 ◆ その他の情報

(1)新技術情報

☆害虫防除関係

ノシメダラメイガの生態と食品工場における対策について

食品の安全・安心が注目されている中、異物混入の防止は食品事業者にとって最優先課題の一つです。なかでも貯蔵食品害虫は、わずかな隙間や包装資材を突破して侵入し、一度発生すれば工場内で急速に拡散するリスクがあります。ここでは、貯蔵食品害虫で異物混入トラブルの多いノシメダラメイガの生態及びその対策についてご紹介します。

ノシメダラメイガは鱗翅目（チョウ目）メイガ科に分類されます。食品の製造場、流通倉庫、販売店の他、一般家庭にもごく通に見られる害虫です。食害をするのは幼虫だけで、食性が極めて広いのが特徴です。穀類とその加工品、香辛料、乾燥野菜・果実、豆類、ナッツ類、チョコレート、スナック菓子などを食害し、包装フィルムを食い破って侵入する強い穿孔力を持っています。

食品工場での対策

貯蔵食品害虫の侵入は搬入される加工用原料に潜伏して持ち込まれることがあります。

原料・素材メーカーとの協力体制による品質管理を徹底し、原料の検査や検品を実施することで、原料・素材厳選レベルを低下させないことが大切です。また、外部倉庫や段ボールを介した工場内への持ち込みもあるため、倉庫・原料置場を製造工程から分離、隔離することも対策の一つです。次に、工場内での発生を防ぐ最も重要な対策は清掃です。粉溜まりや隙間、暖かい場所が発生しやすいポイントになります。主な発生箇所は以下のとおりです。

- ・原料倉庫：パレット下、粉漏れ、破袋
- ・中間保管庫：空袋、段ボール隙間
- ・包装室：充填機のカバー内部、床の粉だまり
- ・製品倉庫：外部混入及び広域飛翔
- ・リフト・台車・マテハン機器：粉の付着

あいち産業科学技術総合センター食品工業技術センターニュース 2026年3月号

技術解説 「ノシメダラメイガの生態と食品工場における対策について」

https://www.aichi-inst.jp/shokuhin/other/up_docs/news2603_2.pdf

☆環境保全関係

環境 DNA でため池に生息する魚種がわかる！

一農業用ため池における環境 DNA 分析によるモニタリング法の開発一

開発の背景・ニーズ

農業農村整備事業では、事業着手前後に生物調査を行い、工事の施工に必要な環境保全対策やその効果の評価を行っています。農業用ため池では、水を落として調査することが難しく労力がかかるため、当场で開発した採取した水から調査ができる環境 DNA 分析を用いて、モニタリング手法の開発に 取り組みました。

成果の内容

貯水量 10,000?以下の小規模なため池において、池干しを行った捕獲調査では、環境 DNA 分析で検出された種数の約 82%の種数を確認できたことから、環境 DNA 分析による調査には一定の精度があることが確認されました。また、特定の魚種（ウシモツゴ）を対象とした調査では、採水場所や採水深さを変えても、全ての位置で環境 DNA を検出することができたことから、採水作業が容易な取水塔等 1 箇所で調査すれば良いと考えられました。

愛知県農業への貢献

ため池における生物調査に環境 DNA 分析を導入することで、捕獲調査と比べて省力的に、ほぼ同様な調査結果を得ることが可能となり、効果的な環境保全対策を図ることが可能となります。

2025 年愛知県農業総合試験場の 10 大成果

.....

編集後記

長いゴールデンウィークが終わって広く夏を迎え、いよいよ本格的な夏が近づいてきています。

さて、東海生研では本年度の最初のイベントとして第 1 回セミナーを 6 月 15 日(月)に「ウイंकあいち」で開催しますので、どうぞふるってご参加ください（会場参加の他、オンライン参加も可能です）。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 中山・道村

TEL & FAX : 052-789-4586

E-mail : bio-npo2*y4.dion.ne.jp (*を@に書き換えてください)

URL : <https://www.biotech-tokai.jp/>

東海生研のメルマガ配信の登録（無料）ご案内

<https://www.biotech-tokai.jp/ezine-reg> 確認